

第70回水道事業審議会 質疑等

日 時 令和4年7月14日（木）
14時～16時
場 所 岡山市水道局 三野浄水場
見学者ホール

■財政健全化に向けた議論について（第2回）

- ・ 独立採算で事業運営をやらないといけないのは理解できるが、非常に厳しい見通しであることを踏まえ、岡山市一般会計から資金を融通してもらおうという考えはないのか。
⇒ 独立採算の背景には、実際に水道をご使用された方から、ご使用された分だけ料金をお支払いいただく受益者負担の原則がある。税金を投入するということは、水道を利用していない人も負担することになるので、まずは水道事業としてどうすべきかを検討しなければならないと考える。
なお、消火栓の経費など、市の行政として負担すべき経費については、一般会計から基準を設けて繰り入れてもらっている。
- ・ 28ページのアクアプラン2017との比較について、資料に下振れという表記があるが、計画より内部留保資金が減少しているのは、工事費の高騰により建設改良費が計画時点より高くなってきているためという認識であっているか。
⇒ お見込みのとおり。特に近年、労務費や材料費等の上昇により、計画策定時点と同等の条件で比較すると25%から30%くらい工事費が増えており、物価高等に呼応して費用がかさんでいる状況が見て取れる。
- ・ 30ページにご意見をいただきたいとあるが、水道料金値上げ以外思いつかないのだが。例えば、水道の広域化という話も聞くが、これによりどれくらいの財源が生み出せるのか。
⇒ 広域化については現在、県を中心に議論をしている最中。シミュレーション案によっては、岡山市の水道料金が高くなる懸念もあり、現時点で具体的にこれくらいの財源が生み出されるというものは提示できない。

なお、料金改定しかないのではというご意見をいただいたが、お示した財政シミュレーションは、水道局が必要と考える投資規模と企業債負担の考え方を元に作成している。従ってまずは財政健全化の議論の前提として、投資の方針と今回説明した企業債の借入方針というこの2つについて、しっかりと皆さまにご説明し、これに対するご意見をいただいた上で、1つ1つ丁寧にお答えしなければならないと考えている。

・ 企業債の借入について

- ① 借り入れの方法について、例えば10年間の必要額を一度にまとめて借り入れる等、どのような形で借り入れていくのか。
- ② 借入の利率は固定なのか、変動なのか。また、一般会計の方から安い金利で融通してもらうとか、負担軽減策はとれないか。
- ③ 借り入れた企業債を将来世代の水道料金で一部を賄うとあるが、それはどういうイメージで理解すればいいのか。
- ④ 示された収支見通しによると、内部留保資金がマイナスになっているが、この状態はすなわち足りない部分は全て企業債で補っている状態ということか。

- ⇒ ① 企業債の借入は、工事の支払額に応じて毎年借り入れている。
- ② 固定金利で、国から市中銀行等から借りるより有利な利率で借り入れている。
- ③ 企業債は、後年、大体25～30年の期間で利子とともに返済している。その時その時の原資で返済するので、結果として将来世代の水道料金が使われることになる。
- ④ 内部留保資金がマイナスにならない状態をどう構築していくかということが財政健全化のテーマであり、一番ご意見をいただきたいところ。内部留保資金の不足を補う方策の1つとして、企業債の借入で穴埋めすることもありえる。それ以外では投資を再度見直して補うという方策もある。

※ 「旭川水系の渇水対策について」 は質疑なし